

孔子の門人である顔淵（顔回）と子路が、ある日、孔子のそばに侍っていた時、ふと孔子が言われた。「どつだ、お前たち。それぞれに理想とするところを述べてごらん」

すると、まず子路が「車馬衣裘（いせう）朋友とともに之を破りて憾（ごん）むこと無からん」

一車でも馬でも上等の上衣でも毛皮の外套でも友達に融通しあい破り捨てても惜しがらぬようになりたいーと熱烈なる友情を述べた。

次に顔淵が「善に誇ること無く労を施すこと無からん」

ー自分は他人に善を施してもその功を誇らず、自分でできることなら何事でも労を厭わず自らその労に服し他人にその労を押し付けるようなことはしたくないーと述べた。

そこで子路が「ひとつ、先生の理想をうかがいたいものですー」と言ったので、孔子は「若者は之を安んじ朋友は之を信じ少者は之を懐けん」



▲子路

ー老人には安心させ、この世を楽に暮らさせたい。友人とは信じて交際を全うしたい。少年はこれを愛して懐け導いてやりたいものだー

これは論語の「公治長第五」の中的一文である。孔子と二人の高弟との打ち解けた話が見え聞こえるように、子路の友情や顔淵の遠大で高尚な理想に対して、孔子の言葉は天のごとく広く、海のごとく深い。すべての人に対して仁をもってあたる包容力な所が言外に溢れている。

とにかく問題の多い現代社会の中にあって、是非、玩味（がんみ）していただきたい一文である。

論語大学について

かつて、私たちの郷土・多久は先人たちの努力により佐賀藩内はもちろん諸藩に先駆けて邑校・東原庠舎、そして聖廟を建立。この地に「文教の里」を作り上げた。今一度、私たちは先人たちの血のにじむような努力を思い起こし、その実行に努めるべきではないでしょうか。その願いを込め、元学校長 故・不二見達朗氏が30数年前に多久市報に連載寄稿した論語解説を復刻するものです。

編 集 後 記

毎年恒例の子ども議会を1月28日に開催しました。多久市内の義務教育学校6年生、6人が市長らに素朴な質問をぶつけ、実際の議会の雰囲気を感じてくれました。用意した架空の条例案は「児童のボランティア参加を推進する条例」で、今年の秋に開催される国民スポーツ大会・全国障害者スポーツ大会で、市内全児童のボランティア参加を推進するという内容でした。家族に付き添われ、不安げに受付をする児童は、いざ議会が始まると一変し生き生きと「子ども議員」の大役を務めてくれました。議案質疑では「ボランティアは自分の意思で行うもの」「優秀なボランティアには特典を与えるとありますが、どんな内容ですか」など、本会議さながらの議論が展開されました。今回参加した児童の中から、いつの日か議員として多久市をけん引してくれる人が誕生することを期待します。その間、我々現職の議員たちが、今回参加してくれた子供たちに、恥ずかしくないような多久市を残していかなければならないと決意を新たにしました。（広）

